

# NEWS RRM

[ニュース] Regional Resource Management



〈コウノトリの繁殖地であるロシアの湿原〉

## 地域資源としてのコウノトリ

コウノトリは、ロシアでは人のほとんど住んでいない広大な湿原で繁殖しているが、かつての日本や韓国では人も住む田園地帯に生息していた。つまり、日本でコウノトリを保全するには、前提として我々はコウノトリとの共生を避けて通れないのである。この考えのもと、兵庫県の「コウノトリ野生復帰推進計画」には、「コウノトリと共生できる環境が人にとっても安全で安心できる豊かな環境であるとの認識に立ち、人と自然が共生できる地域の創造に努め、コウノトリの野生復帰を推進する」と明記されている。コウノトリの野生復帰の目指す目標は、自然と共生できる地域づくりなのである。しかし、計画の主旨は理解できても、コウノトリの嫌いな、またはコウノトリを必要としない人も多くいる。このような人々にもコウノトリと共生する地域づくりの重要性を認識してもらうには、別の考えが必要である。

私は、コウノトリの野生復帰計画の参考のために、2001年から、野生個体の繁殖するロシアに何度か足を運んだ。兵庫県は、1969年から旧ソビエト連邦ハバロフスク地方と友好提携を結んでいたため、現地での対応相手は同地方行政の担当者であった。その彼の名刺を見て目にとまったのが、*Ministry of Natural Resources* という所属部署であった。つまり、彼は、天然資源省の役人だったのである。日本では、希少鳥類の保護は環境省や文化庁が管轄し、資源の管理は経済産業省が管轄しているので、ロシアの

コウノトリの管轄省庁が天然資源省であることに、その時は戸惑いを感じた。

農耕民族の日本人にとっては、野生動物の管理といえば保護か駆除の考えしかなく活用するという発想がほとんどない。しかし、ロシアを訪れるうちに、コウノトリを天然資源とみなす発想がコウノトリと人の共生を促進することに役立つという思いに至った。なぜならば、コウノトリを資源とみなせば活用する発想が生まれるからである。例えば、見学する人々が訪れば観光の、コウノトリがいることによって農作物に付加価値が生じれば農業の、まちづくりのシンボルになれば行政の、共生のために人々の生活が変われば文化の、生きた教材として環境を考えれば教育の資源として、多様な方法で活用することができる。そのために、兵庫県では、コウノトリ野生復帰推進連絡協議会を設置し、住民、団体、学識者、行政など多様な主体が参画・協働して、持続可能な活用(開発)の方策を提案・実施している。

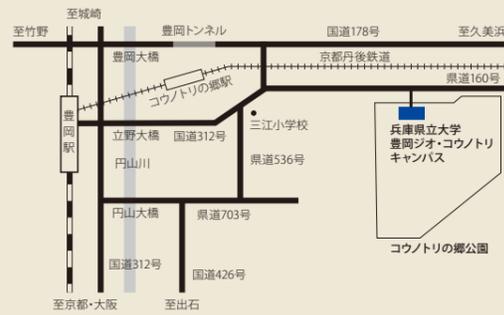
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科のめざす教育・研究理念は、地域固有の自然、社会、文化を地域資源と捉え、地域との連携・協働を通して持続可能な地域社会づくりを実現することである。コウノトリという希少鳥類を地域資源として発掘・活用・保全することで人との共生関係を促進する考え方は当研究科の理念の礎となっている。

### 教授 大迫 義人



兵庫県立大学大学院  
地域資源マネジメント研究科 RRM  
〒668-0814 豊岡市祥雲寺128(兵庫県立コウノトリの郷公園内)  
兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス  
Tel. 0796-34-6079 Fax. 0796-22-5200  
E-Mail: rrm@ofc.u-hyogo.ac.jp

<http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



【写真提供】  
大迫義人：ロシアの湿原  
亀田直記：生徒実験、モデル教材、小学校教員対象の研修  
川村教一：山形県垂水霊場の岩石  
出口智広：小笠原諸島のアホウドリ  
佐野恭平：黒曜石

## Information

### 冬のオープンキャンパス2019 Information 01

当研究科の一般公開「冬のオープンキャンパス」を令和元年12月22日(日)の午後1時45分から開催します。当日は研究科のカリキュラムや入学試験の概要を説明し、施設およびフィールド見学、大学院生による研究活動紹介などを行います。当研究科に興味をお持ちの方、受験を検討されている方、但馬周辺地域にお住いの社会人の方の来学をお待ちしています。

- 日 時： 令和元年12月22日(日)13:45～16:15
- 場 所： 兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス (豊岡市祥雲寺128番地)
- 内 容： (1)研究科、カリキュラム、入学試験についての説明  
(2)施設やフィールドの見学、大学院生の研究紹介  
(3)個別相談、在学生との交流

※令和元年12月17日(火)～12月22日(日)の期間に個別面談を毎日受け入れます。随時受付しておりますので、希望日時と話を聞きたい教員をお知らせください。

### 博士前期課程B日程入試 Information 02

博士前期課程B日程入試(全日程をあわせて定員12名)を、令和元年12月15日(日)に実施します。試験は専門試験(小論文)と口述試験で、会場は豊岡ジオ・コウノトリキャンパス(豊岡会場)と神戸商科キャンパス(神戸会場)から選べます。なお、博士前期課程C日程入試および博士後期課程第2回入試は令和2年3月1日(日)を予定しています。

入試日： 令和元年12月15日(日)  
願書受付： 令和元年11月19日(火)～12月3日(火)

※事前に受験資格審査が必要な場合は、令和元年11月2日(土)～11月15日(金)に審査書類をご提出ください。

【お問い合わせ】 各催しの詳細はウェブサイトをご覧ください。あるいはメール、電話にてお気軽にお問い合わせください。

### 第18回サイエンスカフェRRM Information 03

長い地球の歴史の中で、たった一日の噴火が森林生態系を大規模に改変してしまうことや、たった一回の外来種の導入がその後の島嶼生態系を大きく変えてしまうことがあります。同じ地域で長期の研究を継続することで、私はこうした事件の目撃者となり、自然の変容を記録し続けてきました。この間、ヘビとトカゲの生態や行動、形態の地理的変異に注目し、島集団間の進化的変化が、他の生物との関係の在り方の地理的な違いに帰着することを明らかにしてきました。

伊豆諸島の島々の記録者として野外研究を続け、生物の世界を生態的、進化的に変化させる原理を具体的に明らかにしつつ、島々の生態系を包括的に理解するのが目標です。学術的成果を生み出す宝島としての価値を高め、自然生態系の保全と再生に成果をあげていく、そんな意思があることを下地にして、トカゲとヘビのお話をさせてください。

日 時： 令和元年10月27日(日) 15:00～17:30  
場 所： 兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス 多目的室 (豊岡市祥雲寺128番地)  
定 員： 40名(先着順)  
参加費： 無料

1. 話題提供 (15:00～16:15)  
長谷川雅美 (東邦大学理学部生物学科)  
長期野外研究でさぐる火山島のヘビとトカゲの共進化
2. ディスカッション (16:15～17:30)

●サイエンスカフェRRM 2019年度スケジュール

回	期日	話題提供者
16	5月12日(日) 14:00～16:30 <span style="color:red">終了</span>	岡田 誠氏(茨城大学理工学研究所)「地磁気の逆転とチバニアン」
17	7月28日(日) 14:00～16:30 <span style="color:red">終了</span>	杉本 宏氏(京都造形芸術大学歴史遺産学科)「地域の個性と文化的景観」
18	10月27日(日) 15:00～17:30	長谷川 雅美氏(東邦大学理学部生物学科)「長期野外研究でさぐる火山島のヘビとトカゲの共進化」
19	12月8日(日) 14:00～16:30	石田 啓祐氏(徳島大学)「若杉山：日本最古の水銀朱鉱山遺跡を地質学から読み解く(仮題)」

